

《台風より強いゲリラ豪雨？お盆以後強烈な雨が短時間に狭い地域で降り、穂をつけ始めた稲があちこちで倒れています。今まではなかった自然現象です。》

《今年産からITを駆使した農業気象システムを導入し、「過去」と「IT」異常気象に対抗していますが、予測精度はかなり苦戦。人間の英知はまだまた自然の前では力不足のようです。》



有限会社エコ・ライス新潟
新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100
TEL:0258-66-0070 FAX:0258-66-0447

クイーン倶楽部だより 9月号



刈り取り直前!

新米の季節まであと少し!

今年の夏の天候は、お盆頃までは日中30度を超えても夜温は24度前後まで下がり、稲の体への負担は少なく推移しました。8月末には連日の集中豪雨で充実しかけた穂が傾いたりしています。

収穫直前まで気を抜けない天候が続いていますが、新米を皆様にお届けするまでがんばります!

写真/東京家政大学の3年生。出穂した白籾を見学。



稲のおしべとめしべ。花びらだった部分が糊になります。



開花した稲の花。稲はわずか3時間ほどしか開花しません。稲は自家受粉をする植物なので、長時間花を咲かせると他の植物と交雑してしまう危険があるため、短時間しか花を咲かせません。

Dr中村のお米の話



中村 信也(なかむらのぶや)

医学博士。東京家政大学家政学部栄養学科教授として教鞭をとり、「食と医療」の医療栄養研究の第一人者として活躍中。

秋は名月のシーズンとなっています。何故秋に月を愛でるのかといえば、農業の神様というべき「お月様」に秋の実りを捧げ、感謝する儀式なのです。月を見て、団子を食べて酒を飲んでわいわいやるのはありません。お月様へ感謝する行事なのです。

月見行事には十五夜と十三夜があります。十五夜は旧暦8月15日の満月の日を指し、今年9月14日の日曜日です。十三夜は旧暦9月13日、今年10月11日の土曜日です。お月様に感謝する行事ですので、国民の義務なのです。これを読んだ方は実行せざるをえません。

お月見は、月見三點セットを供えて厳かになされます。三點とは薄、芋、団子です。十五夜は「中秋の名月」と呼ばれますが、別名「芋名月」といい、芋の収穫に感謝するものです。里芋が主役です。じゃが芋とさつまいろが俺たちの方が上位だと怒りますが、両者は江戸時代由来で、歴史の格が違います。十三夜は「栗名月」または「豆名月」といい、栗、柿、梨などの果物と、大豆、小豆など豆類が主役です。

この日、米は脇役です。米への感謝は「新嘗祭」があり、勤労感謝の日には国民が祝ってくれるので、月見では有名人参加扱いです。米は団子姿で参加します。この団子を「月見団子」といいますが、「糝粉団子」とも呼びます。米を日光で乾かし粉にしたものを糝粉といいますが、新粉とも書きますので、新米でできた団子がいいのですが、そこはこだわらなくてもよいでしょう。

団子はお皿の上に無造作に置いてはいけません。丸いお盆の上に奉書の紙を敷いて、その上に五個(下段4個上段1個)、または十五個(下段9個中段4個上段2個)置きます。置き方は主役の里芋または栗・豆が上座で月から見て左側に置き、脇役の団子は下段です。

今回は月見とお米の話でした。



第21回 月見団子

《昨夏と今夏の違いは、「夜間」の温度の差です。昼暑くても夜が涼しいと良く寝られ体も休まります。稲も人間も同じです。》